

1 日 時 : 令和3年10月28日(木) 15:00~16:50

2 場 所 : オンライン会議 (Zoom)

3 出席者 :

・ 委員

井手委員、折野委員、柏木委員、葛山委員、徳廣委員、福嶋委員、前野委員、松原委員、安岡委員、山下委員

・ 京都府

・ 京都府内の市町村

4 概 要 :

(1) 「熱中症対策会議」の設置について

<委員等から意見なし>

(2) 令和3年度 of 取組について

<委員等から意見なし>

(3) 委員によるプレゼンテーション

◆ 住まいの観点

- ・ カーテンだけでは日射熱の流入が大きい。窓の外の日よけが重要（日よけは窓の内側ではなく、外側が有効）。
- ・ 高さの差のある（2つ以上の）窓を開けると、風がなくても温度差による換気で風が抜ける。
- ・ シェードを設置し、部屋の温度が低くなると、エアコン吹出口から出てくる空気（冷気）の温度が高くなる（＝寒いと感じにくくなる）ため、エアコン使用の抵抗感が減る。このことは熱中症予防に有効である。
- ・ 熱中症予防のためには、日よけ等、住宅面からの対策をもっと実施すべきであり、温暖化防止にも有効である。

◆ 気候変動の観点

- ・ 熱中症による救急搬送者や死亡者が多く発生しており、熱中症リスクの高い方々（高齢者等）の適切な予防行動が必要。適切な予防行動には、自助、共助、公助が必要。
- ・ 暑さ指数（WBGT）や熱中症警戒アラートという言葉や情報を浸透させることが重要。

◆ スポーツの観点

- ・ 指導者（特にジュニアへの指導者）は、熱中症に関する知識と理解が必須。
- ・ 個人的要因（体質や持病）や体調（発熱、下痢、寝不足、朝食抜き等）も、熱中症の要因の1つ。これらの項目について、事前・事後（終了後に倒れるケースも多い）にチェックすると良い。

◆ 高齢者の観点

- ・ 室内熱中症のリスクの高い高齢者は、独居、80歳以上、要介護4以上の方。
- ・ 室内熱中症を予防するための適正室温（理想）は26℃未満。
- ・ 第三者が介入できる範囲は限られているため、家族や個人による室温管理が重要。
- ・ 熱中症リスクが真に高い人の特徴を見出すことが重要であり、もっと多くのデータが必要。

(4) 熱中症対策方針（仮称）について

<委員等から意見なし>